

- 問1 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。(2022年 群馬県公立入試 類似)
- 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。
 - 気候の寒化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。
 - 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。
 - 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。
- 問2 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。(2018年 大阪公立入試 類似)
- 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。
 - 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。
 - 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。
 - 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。
- 問3 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅（かや）などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。(2018年 奈良公立入試 類似)
- 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている
 - 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている
 - 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている
 - 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている
- 問4 『魏志』倭人伝などの中国の歴史書に記述が見られ、3世紀ごろに争乱が続いていた倭国を治めるため、邪馬台国の女王として共立された人物は誰か。(2016年 北海道公立入試 類似)
- 卑弥呼
 - 推古天皇
 - 持統天皇
 - 神功皇后
- 問5 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。(2019年 徳島公立入試 類似)
- 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた
 - 土地を耕したり木を加工したりする実用的な道具として用いられた
 - 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた
 - 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた
- 問6 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。(2026年 新潟公立入試 類似)
- 銅鐸
 - 銅鏡
 - 銅剣
 - 石包丁
- 問7 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。(2020年 徳島公立入試 類似)
- 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた
 - 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った
 - 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した
 - 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた
- 問8 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。(2021年 岡山公立入試 類似)
- 高床倉庫
 - 竪穴住居
 - 環濠集落
 - 前方後円墳
- 問9 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。(2023年 岩手県公立入試 類似)
- 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため
 - 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため
 - 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため
 - 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため
- 問10 佐賀県に位置し、周囲に深い堀や土塁を巡らせた「環濠集落」の跡が発見された、弥生時代を代表する遺跡の名称を選びなさい。(2022年 三重公立入試 類似)
- 吉野ヶ里遺跡
 - 三内丸山遺跡
 - 岩宿遺跡
 - 登呂遺跡
- 問11 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。(2023年 富山公立入試 類似)
- 「後漢書」東夷伝
 - 「魏志」倭人伝
 - 「宋書」倭国伝
 - 「隋書」倭国伝
- 問12 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。(2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 高床倉庫
 - たて穴住居
 - 貝塚
 - 環濠集落
- 問13 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。(2021年 佐賀公立入試 類似)
- 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。
 - 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。
 - 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むを防ぐ必要があったから。
 - 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防壁が必要だったから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問2	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問3	答え 1 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることで住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっています。同じ集落内であっても、目的によって構造が明確に使分けられていたことがわかります。
問4	答え 1 卑弥呼	3世紀の邪馬台国において、呪術的な力を用いて国を治めたとされる女王です。中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。推古天皇は飛鳥時代の最初の女帝、持統天皇は飛鳥時代後半の女帝であり、時代が異なります。
問5	答え 1 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問6	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問7	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問8	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問9	答え 1 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問10	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代には、稲作に適した土地や水をめぐる争いが増えたため、防御機能を備えた集落が作られるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠（堀）や物見やぐら、高床倉庫などが確認されており、当時の社会の様子を今に伝える極めて重要な遺跡です。なお、三内丸山遺跡は青森県の縄文時代の遺跡、岩宿遺跡は群馬県の旧石器時代の遺跡です。
問11	答え 1 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問12	答え 1 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問13	答え 1 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。